

やすらぎ



「歎異抄」(第四十八回)

標 暁 講述

「歎異抄」後序 続き
いづれもいづれもくりこにてそう
らえども、かきつけそうらうなり。露
命わずかに枯草の身にかかりてそう
らうほどにこそ、あいともなわしめ
たまうひとびとの御不審をもうけた
まわり、聖人のおおせのそうらいしお
もむきをも、もうしきかせまいらせ
そうらえども、閉眼ののちは、さこそ
しどけなきことどもにてそうわんず
らめと、なげき存じそうらいて、かく
のごとくの義ども、おおせられあい
そうらうひとびとにも、いいまよわ
されなんどせらるることのそうらわ
んときは、故聖人の御ころにあいか
ないて御もちいそうらう御聖教ども
を、よくよく御らんそうらうべし。

(真宗聖典六三九頁〜六四〇頁)

お念仏一つだという事。ところが、
お念仏一つだという事を教えられて
領いていても信心が違う人がいると
いう事。つまりお念仏を自力のころ
で称えなければならぬ、良い心を自
分でおこして称えなければならぬ、
数多くお念仏を称えなければならぬ
い、精神を統一して称えなければ意味
が無い、そういう了解をしている人も
いる。

学問をしなければ駄目だとか、念
仏一つだという事は、はつきりしてい
ても、念仏申す事について間違った信
心がある。

それが問題、つまり勢観房、念仏房
は学問中心主義、法然上人が知恵、才
覚が広くて、学問も深い方であるのに
どうして、親鸞聖人と信心が一つだと
云っているという事は、念仏を申すと
いう事は大前提になっているけれど
も、その念仏の意義を研究されて、そ
の意義を知らなければ駄目なんだと

いう計いがある。

救済と学問は違う、学問をしなけ
ればならないのなら、学問に耐えられ
ない人、学問が出来る縁が無い人はた
すからないという事になる。

学問をしなければ駄目だという事
を自分も思っている、人にも主張する
そういう人も法然上人の門下にした。
法然上人、親鸞聖人が亡くなった
後、色々間違った自力の執心で念仏し
ているに違いない。

唯円大徳が生きている間は、疑問
が有る後輩に、聖人がこう仰いました
と教えることが出来るが、亡くなった
後は混乱の生ずる事であろうと考え、
先の教団の起こってくる混乱を嘆い
て、この様な異義に惑わされそうにな
った時は、親鸞聖人の思召しに適っ
て、良く用いられた法然上人御弟子
の、間違いの無い御聖教をよくよく

光照寺寺報

発行所
真宗大谷派 弘興山
宗教法人光照寺
〒331-0821
さいたま市北區別所町102-2
電話：048-651-2781代
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://koshoji76.jp
発行人 池田孝郎

読みなさいと云っている。まず第一に
一向専修になっているかという事が
問題。

異義を問題にするもう一つ前に、信
心が異なる事が問題になっている。
それ故に一向専修に成っているか、専
ら念仏がはつきりしているかどうか。

表向きは私は念仏者だと云ってい
ても、根本のところでは、他の宗教に
心を奪われたり、運命論に落ち込ん
だり、こういうのは一向専修では無
い。

一向専修というのは念仏一つだと
心が定まる事が第一。

(当寺)法話抜粋要約、文責副住職
釈徹照(次回へ続く)



総会 佐々木師
ご法話



総会 婦人有志合唱

子供会報告

護持会総会報告

報恩講十二月二十六日(七午前十二時)厳修

詳細は五頁

詳細は四頁

詳細は三頁



この度は「罪」について考えてみたいと思いました。

私自身が若い時より罪の意識に苦しんで来た経由があり、ある時その自己責めから解放された瞬間を得たが、説くことが出来ず、又、苦しむ自体となった。それが機縁となつて親鸞聖人に出遇うことが称い、一切の罪を超えて共に救われる道が「念仏」と頂くことが出来、「ここに道あり。」と、「法性の覺月を指す指び」となっている。しかし、よく学んでみると、洋の東西、古今より多くの聖人、偉人、賢人がこの人間の罪業性を明かし、それ

を超え様として来たことがわかる。そのことを尋ねると善悪の分別に至る。人間は罪に戦き、罰を恐れ、裁きに怖畏する存在であつたことです。

別の視点から観れば、罪を感じ、罰を感じ、裁きを感じ、善悪を自他に観る存在こそ人間の人間たる所以でありましょう。

しかし、その善悪の分別心に翻弄され、善を立て、悪を廢する思考が、倫理、道徳、法律、思想、哲学、宗教となつて、又、対立し、罪と罰をもつて裁き合つてしまふ。

ここに人間が人間となつた時点、猿人から原人へ、そしてホモサピエンスとなつて進化し、現代人として、この地球に生存している今日のわれらの姿でありましょう。

しかし、善悪を知り、罰を恐れ、神の裁き、死後の裁きまでも畏怖する現在のわれわれは何んでありましょうか。

正しい行いをして、罪を感じる深い内面の深層から湧き出づる声なき声を聞くのでしよう。

「自分は正しい、天に向かつても一点の曇りもない。」と、喩えて豪語しても、内心に忸怩たる思いが惹起するのが、又、人間でありましょう。

私は夏目漱石が「三四郎」に示唆する、「露悪」と「偽善」を憶い、又、

漱石が「則天去私」に至るのも、人間の内面を洞察する優れた境地と憶うのです。

人間が如何に高邁な精神をもち、崇高な論理を立てても、自分を善しとする自我存在に気づかなければ助からない存在と思つたので。自我存在は自己中心性であり、もし、私が「人間の罪業性とは何にか」と問われれば、「自我存在のわれ」と答ざるを得ない。人間は自我を依り処として、自己を立て、生きている存在と思つたから。そこに罪を感じるものが他の動物にない、人間の所以でありましょう。しかし、その自覚の罪を超えなければ、死の恐怖を超えられないことです。

仏教ではそれを「本罪」と示しております。「無始よりこのかた、虚仮諂偽にして真実の心なし」と示し、聖人は「卯毛羊毛のさきのつみも宿業」と示され、念仏のみ生死海を超える唯一の道であると示す。

仏様のお心は「大慈悲心」であります。罪深く、障り多く、悪重き一切衆生を摂取したもう。

『如来の作願をたずぬれば、苦悩の有情をすてずして、回向を首としたまいて、大悲心をば成就せり。』と親鸞聖人は和讃に示されておられます。このお心が本願のお心です。

南無阿弥陀仏。

真の依り処

あなたはお念佛の用きを信じますか。佛智疑惑の自覚について法が出来ますか。問題は勉強してわかるというのとは違います。学問ではたすからないと。お念佛の用きによつて助かるのですと。樅暁先生よりお聴き致しました。八月二十七日、二十八日で真宗会館主催箱根にて本郷親鸞講座（本多弘之先生一泊交流会に参加させて頂き意義深い時間を過ごさせて頂きました。先生から金剛心の獲得をうるとどういふふうになるか、これない金剛の心はどういう意味でいわれるのか。大信海とは、自力の用きが死して本願力に値遇し我が国に生れんとおもえの欲生心を如来より賜り人間が助かるのであると。死して生きるのだと。

岡田ノリ子
南無阿弥陀仏。

鈴の音

いただきますと合掌するのは感動の表現である

米沢英雄

(「同朋新聞」より)

【報恩講は宗祖、親鸞聖人のご恩徳に
 報謝し、いのちの道理を深く尋ねる
 法要で、一年の中で最も大切な仏事で
 す。真宗門徒として必ず勤める法要
 であり、光照寺の今年度最後の大き
 い法要です。是非ともご参詣下さ
 い。】

本年は田畑正久先生（佐藤第二病
 院長、龍谷大学大学院教授）をお迎
 えして報恩講を厳修致します。先生
 は外科医として活躍する傍ら、新聞、
 雑誌での執筆、講演会など、「老病死

報 恩 講

報 恩 講

- ・11月26日(土)
- ・午前11時～3時まで(10時30分受付)
- ・場所 光照寺本堂
- ・日中法要厳修
- ・お斎(お食事)
- ・法話 田畑正久先生(佐藤第二病院院長、
龍谷大学大学院教授)
- ・講題 「仏さんはいらっしゃいますか」

最近の先生の書著：
 「大往生できる人 できない人」(三笠書房)
 「医者が仏教に出遇ったら」(本願寺出版社)
 他多数。

※準備の都合上、出席の際は、
 一週間前にはお寺にご連絡下さい。

をどう受けとめるか」の活動に注力
 幅広く活躍しています。また、ビハー
 ラ活動を実践し、医療と仏教の協力
 関係の構築を目指して活躍されてい
 ます。

真宗との出遇いは九州大学仏教青
 年会で細川巖先生に出遇ったのが今
 日までの歩みにつながっております。
 皆様とともに報恩講を勤めて参り
 たいと存じます。

ご家族、縁者お誘い合わせの上、是
 非とも奮ってのご参詣をお待ちして
 おります。

副住職(釈徹照)

ひと ち 歎異抄

羅漢：人間の罪業性とは。
 「卯毛羊毛のさきにいるちりばかりも
 つくるつみの、宿業にあらずといふこ
 となしとしるべし」

第13章



「うさぎやひつじの毛の先にある
 ちりほどの罪も皆、宿業による。」

川越喜多院の五百羅漢



お盆 勤行

お盆 住職ご法話



お盆の様子

お盆 同朋唱和

護持会総会報告

淡海 雅子

平成二十七年第七回光照寺護持会総会が六月十九日十時から光照寺本堂において多数の参加者と共に開会されました。

勤行(正信偈同朋奉讃)に引き続き、婦人部の皆様に合わせて仏教讃歌「真宗宗歌」・「恩徳讃」の「いのち」を唱和しました。

法話は元豊平道場主、現いずみ会館館主佐々木玄吾師に「蓮如上人御一代記聞書」より、「一宗の繁昌」と題してお話をいただきました。一宗の繁昌とは真に聞き真に頂き、お念仏を申す人の誕生である。細川先生との出会いを通して「専修正行の繁昌は遺弟の念力より成す」の言葉を頂き、「前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え、連続無窮にして、願わくは休止せざらしめんと欲す。」と言う重みが自らに問いかけられているお話でした。

総会は佐々木玄吾会長を議長に議案に入り、前年度護持会の活動実績及び、護持会収支決算と監査が報告され全会一致で承認されました。新たに平山正三氏が護持会副会長、総代、門徒会会員、また藤原自雄氏が総代、池田恵美氏が世話人として承認され挨拶がありました。

今年度活動計画案及び、今年度収

支予算案が提案され何れも原案通り可決承認されました。続いて、副住職様より年間行事、聞法会の紹介、サークル活動の案内と参加の呼びかけ、大塚氏より子供会「ポニークラブ」の紹介がありました。光照寺旅行は十月二十九、三十日に「世界遺産五箇山と妙好人赤尾の道宗を訪ねて」富山、金沢旅行と移動聞法会を企画しております。

第十七回の護持会が勤まることは本日のご法話「一宗の繁昌は遺弟の念力より成す」ということの具現化であり、具体的に証せられ本当にありたいことであり皆が如来聖人の御弟子であると御住職様より挨拶を賜りました。続いて新役員に委嘱状が授与されました。

総会終了後、お斎をいただきながら感話と初参加者の自己紹介がありました。引き続き絵解きサークルによる「白骨の御文」の絵解きがあり御文の重さを再確認しました。その後、「民話の会 どんとはれ」による民話に一同聞き入りました。

最後に全員で仏教讃歌「恩徳讃」を唱和し閉会いたしました。今後とも皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



民話発表

民話の会 どんとはれの皆さん



総会 佐々木師ご法話

護持会総会の様子

絵解きサークル発表

子供会報告

子供会ポニークラブ
梨狩り&外遊び

坊守 池田 邦子

前日のゲリラ豪雨から一転して晴天に恵まれ、大人十四名、小人八名の参加を得て予定通りの行動が出来ました事に感謝。陽子さん導師の勤行



子供会集合写真



大塚陽子氏お話

に始まり、自己紹介、賛歌斉唱、本山出版「ほとけの子夏のしおりお盆」冊子配布、全員で読み合う、本堂にて五年生になった結衣ちゃん他皆さんのお手伝いを頂き、カレーの昼食後、西区石川梨園へ移動、御主人より、もぎ取りのこつ、手順を教わり、腰をかか

めでの梨のもぎ取りの開始、大きい梨に目が行きました。試食も頂き、とっても甘くみずみずしかったです。各々、家へのおみやげを手に次の花の丘公園へ、水着に着替えてたっぷり水遊び、シャボン玉遊び、子供達は元気いっぱい、お寺に戻り、アイスクリームでのどを潤し、恩徳讃、夏休みの思い出作り出来たかな？ 皆様お疲れ様でした。次回は十二月二十五日(日)子供報恩講予定です。ご参加をお待ちしております。



梨狩り



花の丘公園にて



寺務所より

◆法要のご案内

●報恩講 十一月二十六日(土)午前十一時より厳修。講師は田畑正久先生(佐藤第二病院院長、龍谷大学大学院教授)

●修正会 平成二十九年一月一日元旦、午後一時より厳修。新年を阿弥陀如来のご尊前より出発致します。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会 講師は延塚知道先生(大谷大学特別任用教授)十一月十八日、平成二十九年一月二十日、午後一時半〜四時半。『教行信証』を学んでいます。

●大経の会

十月二十四日、十一月十三日、十二月二十日、午前十時〜午後三時まで。講師は佐々木師と住職の担当月別。『正信偈讃仰』(五)を学んでいます。お弁当持参して下さい。

●我聞の会

十月十七日、十一月十五日、十二月十三日、午後二時〜四時まで。『真宗の簡要』(住職著) サブテキスト「無量寿経に聞く」(松原祐善著)を学んでいます。講師は住職。

●微風学会

毎月開催。午後七時〜九時まで。講師は副住職。「顕浄土」の教学、親鸞における現生不退の視座、

(副住職著) サブテキスト「今日のことば」『真宗の生活』を学んでいます。十月十八日、十一月二十一日、十二月六日。

●絵解きサークル

十月十八日、十二月六日、午後二時〜四時。

●聲明サークル

十一月二十一日、午後二時〜四時。講師は副住職。

●さいたま親鸞講座

午後二時〜四時。会場は大宮川鍋ビル。十月八日、十二月十日、平成二十九年二月十八日。講師は四衢亮氏。

◆お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。宜しくお願ひします。

俳句・川柳



吉澤 光昭

磐梯山下りし楽しみ新走

羽音にも憂いありけり囀鳥

草の秋子等のでんぐり返しかな

笑む子ほどまとわり付きし

いのこづち

セーターにイニシャル付けし草虱

江部 良吉

大鬼蓮この世に戻り花得たり
なのために生まれきしやと蟬時雨
颯風禍悪相となる赤城山
門前仲町かぜは海より心太
上品の月光をゆくお祖師さま

山田 恒

天国に登る階段見え初め
夕日ゆらゆら性善説が蘇る

短歌(詩)



佐々木玄吾

公園を一人で歩くはずかぜと

木々の緑に力たまわる

自治会の北原五組八世帯

そうめん流しで親睦はかる

佐々木文字

ズッキーニ黄色いラツパと

大うちわ

ひろげて今朝も我を待ちおり

赤秀 品枝

鶯の声聞きながら聞法す

豊平道場清きところ

覚えるより忘れることの多かりし

油断大敵第九章は



夏野菜(水彩) 山田 邦興 画

梵鐘

「凡夫のままで仏道を歩む」
大経往生というは、如来選択の本願、不可思議の願海、これを他力ともうすなり。これすなわち念仏往生の願因によりて、必至滅度の願果をうるなり。現生に正定聚のくらいに住して、かならず真実報土にいたる。大経往生は本願力による往生です。いつも「大経の会」や「我聞の会」で学べるおかげさまで、素直に心にひびきます。そういうことだったといろんな先生方のお話を楽しく解らせて頂けるのは本当にありがたいことです。

合掌 釈尼民徳